

6日 土曜

列王Ⅱ

8:1 エリシャは、かつて子どもを生き返らせてやったあの女に言った。「あなたは家族の者たちと一緒にここを去り、とどまりたいところに、しばらく寄留していなさい。

【主】が飢饉を起こされたので、この国は七年間、飢えに見舞われるから。」

8:2 この女は神の人のことばにしたがって出発し、家族を連れてペリシテ人の地に行き、七年間滞在した。

8:3 七年たった後、彼女はペリシテ人の地から戻って来て、自分の家と畑を得ようと王に訴え出た。

8:4 そのころ、王は神の人に仕える若者ゲハジに、「エリシャが行った大いなるわざを、残らず私に聞かせてくれ」と話していた。

8:5 彼が王に、死人を生き返らせたあの出来事を話していると、ちょうどそこに、子どもを生き返らせてもらった女が、自分の家と畑のことについて王に訴えに来た。ゲハジは言った。「王様、これがその女です。そしてこれが、エリシャが生き返らせた子どもです。」

8:6 王が彼女に尋ねると、彼女は王にそのことを話した。すると王は彼女のために、一人の宦官に「彼女のすべての物と、彼女がこの地を離れた日から今日までの畑の収穫のすべてを、返してやりなさい」と命じたのであった。

ゲハジはナアマンの贈り物を勝手に求めたことにより、ツアラアトに侵されました。ツアラアトの者は王の前には出られないことになっていましたから、これはナアマンの出来事よりも前だと思われます。ですから、ききんに関連して、挿入された記事で



しょう。

列王記の出来事を主題に沿って記しつつも、どうしても必要なことがらが、加えられています。それは神様の行き届いたご配慮です。神様は王と民の背信に対して、約束通りに断固とした報いを与えられるのですが、良いものまでもませこぜにして苦しめるようなお方ではないということです。

信仰の人である女性に対してエリシャと通して、主はききんとその逃れる道をお示しになりました。さらには帰った後のことまでも守られるように、不思議な導きを通して、「彼女の物は全部返して」もらえたのです。

周囲は神に反するような人や出来事の中で、自分も同化してしまいそうな状況もあるかもしれませんが、しかし、主のみこころを行う者は決して見過ごしにはされません。ちゃんと行き届いたご配慮をしてくださる主の愛を忘れないで生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

